

クマなどの野生動物による農作物被害が深刻化している中で、各自治体では具体的な被害の把握と効果的な被害防止対策の実施が急務となっています。そこで会津地域において、野生動物による被害(目撃)の現場でどう対応すべきかを以下にポイントをまとめてみました。日々の活動の参考になれば幸いです。

## 2. 被害(目撃)の通報を受けて

### (ア) 現場へ行く前に情報提供者から状況を詳しく確認しましょう

- ① 被害(目撃)の時期について＝時刻、出没回数、過去数年間の被害の有無など
- ② 頭数や個体情報について＝成獣 or 子供、痕跡(足跡、糞、爪痕)など
- ③ 被害があった場合は被害の内容について＝被害作物(トウモロコシ、スイカなど)、程度(作物は全滅してしまった)など
- ④ 場所について＝地図(1/5000程度)上にポイントを示す、周辺の状況(公共施設の有無など)

### (イ) 緊急性の判断をしましょう

- ① 人が集まる場所(学校や役場など)の周辺での情報なのか
- ② 毎年被害が発生している場所なのか
- ③ 周辺の被害(目撃)情報から同一個体の可能性を検討

### (ウ) 現場に入る前に…

- ① 早い行動を心がけましょう
  - 通報から時間が経つほどに出没原因の特定が困難になります。
  - 対策の遅れにつながり、クマが被害地域に強い執着を持ってしまいます。
  - 情報提供者や住民との信頼関係を構築していくためにも素早く現場に入りましょう。
    - ※ 但し、被害(目撃)の詳細情報が伴わない通報は調査ポイントを絞れないだけでなく、調査者の危険度を上げてしまうことがあるため最低限必要な情報を確実に通報するルールを作りましょう。

## ② 安全に調査をするために必要なもの

- クマ鈴&ホイッスル（専用のしっかりと響くもの・積極的に鳴らしながら調査をしよう）
- クマ撃退用ベアスプレー（可能なら携帯 カプサイシンパウダー含有につき取り扱いに注意）
- 傘やレインウェアなどの雨対策（突然の雨にも対応できる準備をしよう）
- カメラ（現場の状況把握に必須）
- 長靴 or ワークブーツ（汚れや怪我防止）
- 地図（住宅地図やグーグルマップなどの航空写真）
- 情報記入シート（調査漏れがないように調査項目などを記載した専用記入用紙を作成しておくが良い（P39 参照））
- 筆記用具（赤や青など多色が便利）
- スケール（クマの足跡の大きさなど計測時に便利）
- チャック付ビニール（フンや被害作物など状況証拠の収集に便利）
- 救急セット（蜂や虫刺され以外にも万が一の対応用として）

## ③ リスクマネジメント（調査者の安全を守るために必要なこと）

- 明るいうちに調査を終わらしましょう（クマは黎明薄暮が主な行動時間です）。
- 蜂蜜などの強烈な誘引物がある場合は細心の注意を払いましょう。
- 被害が頻発している場合は、クマが周囲に潜んでいる可能性が高くなるため、同様に注意しましょう。
- 集落の中の小さな茂みにもクマが潜んでいる可能性をイメージして行動しましょう。
- 曇り空や雨天時はクマの警戒心が薄れて日中も目撃ポイント周辺に潜んで（出没して）いる場合があります。
- 常に2人以上で行動しましょう。
- 山間部の場合は携帯電話の電波も確認しましょう（常に緊急時の連絡手段を確保すること）。